令和6年度第4回羽曳野市こども夢プラン推進委員会 会議録

日時：令和7年2月12日（水） 午後2時～午後3時45分

場所：羽曳野市役所 議会棟2階協議会室

1. 開会

【市長あいさつ】

本日はご多用の中、委員の皆様には、令和6年度第4回羽曳野市こども夢プラン推進委員会にご出席いただき、ありがとうございます。今年度4回目の推進委員会となりますが、第3期こども夢プランの策定に積極的な審議を重ねてきていただいたことに改めて感謝申し上げます。また、2月1日から新たな委員をお迎えして、本委員会もスタートしております。よろしくお願いいたします。国においては、令和7年度こども家庭庁の予算案として、前年度比で1兆円以上の増額となる約7.3兆円が計上され、「こども未来戦略」に基づく、こども・子育て施策の強化を本格的に実行し、こども・若者やそのサポートに携わる人のために質の高い施策に取り組むこととされています。また、経済的な理由で進学が困難なこどもの生活や学びの支援、発達に特性のあるこどもとその家庭への支援等、新たな枠組みも示されたところであります。本市におきましても、「子どもの笑顔あふれる次世代育成」を重点方針の一つに掲げ、教育・保育環境の充実や切れ目のない支援等、こども施策の強化に取り組んでいるところです。今後も、委員の皆様より様々な視点から頂いております子育てニーズについての貴重なご意見・ご指導を反映させた「第3期はびきのこども夢プラン」に基づき、未来の地域社会を担う、「まちの主役」であるこども・若者のためにしっかりと投資をして取り組みを進めてまいりたいと考えております。本日も活発なご議論を頂戴できればとお願いし、冒頭のあいさつとさせていただきます。

○事務局より委嘱状交付並びに委員紹介

2. 正副委員長の選出について

○委員長、副委員長の選出・挨拶

3. 羽曳野市こども夢プラン推進委員会について

○事務局より説明

4. パブリックコメントについて

○事務局より説明

○質疑

（委員）

第3期はびきのこども夢プランはどこまで羽曳野市の財政面や議員に影響していくのでしょうか。

⇒（事務局）

本計画は、羽曳野市が今後5年間でこども若者施策をどういった形で展開していくか、市民の

皆様にも分かりやすく作った計画であり、いわゆる行政計画となっております。財政面や議員との関係もございしますが、あくまで羽曳野市として市民に対し、今後5年間の子ども子育て・若者施策をこういう形で展開していくと示すもので、強制力があるわけではございませんが、行政計画として公表するものであります。

⇒（委員長）

強制力はありませんが、市として計画を立てて公にしているものですので、議員や市長がそれをどうくみ取って施策に反映させるかは、期待したいところです。パブリックコメントは15名の方から計71件いただいており、計画の詳細までしっかり読み込んでいらっしゃるようなご意見もあります。こども・若者の近くで生活されていたり、当事者からの方からのご意見かと思えます。

5. 答申書（案）について

○答申書（案）に基づき委員長より説明

6. 今後のスケジュールについて

○事務局より今後のスケジュールについて説明

7. その他

（事務局）

先ほど財政的な面での質問がございましたが、はびきのこども夢プランは行政計画であり、地域、委員の皆様と協力して、こどもたちのためにどう施策を作っていくかが問われております。第3期計画につきましては、様々なご意見をいただき、それが詰まった計画となっております。パブリックコメントにつきましても、大勢の方からご意見をいただきました。学生の方を含め、新しい委員の方もいらっしゃいますので、第3期計画に基づいて羽曳野市がどういう施策をやっていくか、引き続き委員会で積極的な議論をお願いしたく存じます。拘束力がある計画ではございませんが、ここに位置付けていることで国の補助金をとれる施策などもございますので、個々にきちんと位置付けて施策を進めていくことが重要となります。

（委員）

今後羽曳野市では、幼稚園・保育園を認定こども園に統合していくと聞いていますが、羽曳野市における認定こども園の位置付けをどのように考えているのでしょうか。こども未来館たかわしと向野こども園は全く違うように思います。こども園ごとに個性や特色があってよいと思いますが、最低限小学校に上がるまでにここまではしておく、ここまでは与えておくというラインが市として必要だと思えます。

⇒（事務局）

前回の委員会でも同様のご意見をいただいておりますが、今後も公立園を統合しながらこども園化を進めていく方向で施策を考えているところです。ご指摘いただきましたこども未来館たかわしと向野こども園につきましては、どちらも同じ公立の幼保連携型認定こども園であり、具体的なカリキュラムは園によって若干違いはございますが、3歳以上のこどもであれば教育時間を設け、朝早くや夕方は保育時間を設けるなど、共に教育時間、保育時間を設けて進めております。

園児数は、こども未来館たかわしは1号認定児が多く、向野こども園は2号認定児が多いという違いもあり、昼寝のあるなしに差があるのはご指摘の通りです。同じ公立こども園なのだから可能な限り揃えるべきというご意見はごもっともで、最低ラインは満たしていると考えて運営しておりますが、今後第3こども園の開園にあたり、いまこども未来館たかわしと向野こども園で若干のずれがあるところを、今後どのように運営するかを議論しております。月2回幼稚園、保育園、こども園の先生に集まっていただき、どういう運営をしていくか、現場の意見を中心に決めているところです。ここで出た結論を尊重しながら、こども未来館たかわし、向野こども園のカリキュラムにも生かしていきたいと準備しているところですので、検討してより良い形で運営できればと思っております。

(委員)

はびきのこども夢プランの概要版の6ページですが、見込みが本当に正しいのか、途中で変わることはないのか、変わるときにはどのような体制をとればよいのか疑問です。定員が少ない、定員割れしている園もあれば、こどもがあふれて定員の120パーセントに近いくらい受け入れている園もあります。羽曳野が全市1区域ということで、市全体としては定員を満たしていますが、今後定員割れしている園の定員数を修正することはあるのでしょうか。市が今後、住宅を開発して、公園を作って、住みやすい街になって人口が増えればよいですが、なかなか難しいと思います。こどもの数が減少し、だんだん小学校も統合されるといわれている中で、計画の5年間見込み通りに行くのかが心配ですので、3年後に修正ができるのであれば修正等の検討していただければと思います。

⇒(事務局)

概要版、計画素案にもお示ししております見込量につきましては、これまでの利用実績と人口推計に基づいて出している数字です。もちろん少子化が進んでおり、こどもの人口が減っている一方で保育のニーズが高まっているということで、待機児童をゼロにするために厳しい状況が続いております。全市1区域でみると定員も厳しいところがございます。見直しにつきましては、計画素案にも記載がございますが、計画期間内においても適宜見直しを行うことがあり示しており、今推測される人口の動きや保育のニーズが大きく変わることがございましたら、夢プラン委員会におきましてもご審議いただくことになると考えております。

⇒(事務局)

人口推計については今説明させていただいた通りですが、前期の計画において、見込みよりも減少数が緩やかであるなど、流動のあるものになります。ただ、計画における今後の事業ごとの見込量を出さなければならないので、第3期計画においては5年間の見込みを出しております。色々な状況によって人口が減る、または住宅開発等で人口が計画よりさらに伸びる可能性もございます。羽曳野市内におきましても、西の地域においても東の地域においても開発が新しく行われている、または行われそうなところがあり、新しい住宅ができて子育て世代が転入してくるとなると、そこでこどもが急ではなくとも、5~10年間で増えるということになります。人口分析は、過去5年間の転入・転出数から数学的に算出した予測に基づいているため、それが大幅に異なり計画が成り立たなくなれば見直す場合もあり、人口分析だけではなく、国の新しい制度ができて計画に組み込まなければならない場合なども部分改正することになります。これは本計画だ

けでなく行政計画ではよくあることですので、決めたら絶対というものではないことはご理解いただきたく思います。

(委員)

いわゆる食につきまして、羽曳野市のこどもを育むのはまず食だと認識しております。いかに安全、安心な食をこどもに提供するかというところで、特に給食が大切になってくると思います。本市の給食事業のコメとパンの比率を聞いたときに、週3、4回はコメという回答があったと思います。それから4、5年たっているのので、現状の比率はどうなっているのかということと、日本の主食はコメであるので、あえて週に1回わざわざパンを提供する意味や意義があるのかということ、地産地消が大切だと言われている中で、学生が自ら食育の授業の一環としてコメ作りや野菜作りに取り組んで、それを給食で食べるといったプランがあれば楽しそうだと思います。そういう点についてご回答いただければと思います。

⇒(事務局)

小中学校におきまして、現在週単位でみると、一週間の内1日はパンを提供し、それ以外の日は米飯を提供しております。明確な決まりは持ち合わせておりませんが、もともと給食がパン食から始まっているところから現在も残っているという認識であります。米飯につきましては、これは副食についても同様ですが、ご指摘の通り地産地消も含めてより地域に根差した、地域で産出されるコメを使って、基本的に児童ベースで一日7500食、教職員を含むと8000食以上安全・安心に安定的に供給していくとなりますと、地域の個人で事業をしている農家から安定的に供給いただける体制づくりがかなり難しいのが現実で、現在は大阪府の外郭になる財団法人から必要な数を年間調達しております。各食材の調達費が上がっており、前年度対比で1.8倍となっているコメの価格高騰や、年末年始にかけて野菜をはじめとする食材も軒並み値上がっているところを見ますと、本市ができる範囲も限られております。値上げ相当額については市の公費で負担する形で、まずは安定的に安全・安心な給食の提供を心掛けていくのが最優先という認識でございます。

⇒(委員)

惰性でパン食も提供が続いているのであれば、ぜひ見直しの機会にさせていただければと思っております。

(委員)

今小学校1年生と4歳の息子がおりますが、昨年10月の運動会で、小学1年生は25メートル走において、大半のこどもが10メートルくらいで息切れをしています。小学6年生も200メートル走において、100メートル走ったあたりでばてています。なぜこんなに運動不足なのかを考えてみると、コロナ禍もありましたが、スクリーンタイムが増えて運動の時間が減っているからではないかと思えます。家の近くの公園でもゲームをしています。公園の遊具が減ったり、ボールも使えなくなったりしているということでこどもが外で遊ばなくなっているという現状で、遊び場の整備について議論したいと思っております。

⇒(委員長)

遊び場についてはこれまでも幾度となく出てきましたが、なかなか抜本的な改善に向かっていないのが現状です。小学1年生の例を挙げていただきましたが、学校や園で運動不足について先

生や委員の立場で感じることや対策があればお聞かせいただければと思います。事務局からも何かありましたらお聞かせください。

⇒（委員）

体力向上、学力向上、食育につきましては市と連携してそれぞれの学校でアクションプランを立てて取り組んでいます。体力向上につきましては、全国スポーツテストの結果と比較すると、大阪府、全国より数値が足りていないところもあります。また、市全体で持久力が足りていないということで、校区で体力づくりの分科会を開き、次年度の部会に向けてどういう取り組みでどういう結果が出たかという情報交換をしております。ただ、学校の体育だけでは壁が大きく、家庭・地域との連携は欠かせない部分だと思えます。遊び場につきましてはコロナ以前から問題は多いと思えます。私がこどものころのように軒下でボール遊び等をすることもない中で、学校で各先生が体力向上を頑張っています。校区ごとに保育園と連携して、園遊びを見に行ったり園のこどもたちに学校に遊びに来てもらったりと交流しています。学校に来たらボールも使えて思い切り遊べると声掛けをしていますが、学校開放を毎日していても、グラウンドに来ているこどもは少ない状況です。

⇒（委員）

幼稚園は、コロナ禍もあり、外遊びの経験が少ないこどもが入園してくるということで、難しい部分ではありますが、通園は自転車という方が多く、行き帰りとも徒歩で来ていただくか、行きは徒歩で帰りは自転車できていただくよう啓発をしたりと、小さなことから始めています。カリキュラムに体を動かす時間やマラソンを取り入れたりもしていますが、幼稚園だけでは難しいところもあり、小中学校と連携し、中学校の陸上部の先生に縄跳びや体の使い方を教えてもらうことで、職員の交流を図り、こどもたちも体力をつけられるようにするなど、日々努力しています。

（委員）

こども園の先生の離職率の高さがすごく気になっています。ハローワークに行くと、いつもこども園の求人が出ており、保護者としては不安な気持ちになります。先生は一生懸命保育をしていますが、保護者同士でも、離職率の高さは何が原因なのか話題になり、先生の数も圧倒的に少ないと思っています。こどもは年長で、クラスに34名いますが担任は1人です。サポートの先生もいらっしゃいますが、保護者としては心配です。羽曳野の幼稚園の先生をしている友人は、制作物のセットを作るのに画用紙などを持って帰って残業をしているそうです。保護者で代わりに制作をしてもいいという方がいらっしゃると思いますので、そういうサポートを求められてもいいのではと個人的には思っています。見ていてもしんどそうな時がありますので、先生の労働が軽くなって、助けることができればよいなと思いつつ過ごしています。

⇒（委員長）

保育士の離職率は全国的な課題でもあり、負のスパイラルとなっていますが、現場ではどうでしょうか。

⇒（委員）

園では、職員はできるだけ8時間以内に仕事をして残業はなしとしていますが、保護者の方とのやり取りなどがありますので月に15時間の残業となっています。ただ、工作もこどもメインで

やることとしていますが、同じように黙って持って帰ってやっている職員もいます。自分のポリシーがあって、手伝いを断る職員もいます。今のところやめる職員はいませんが、そういう問題もあります。

⇒（委員）

非常に協力的な保護者の方のお話を聞けましたが、そもそも労働基準法では通常8時間勤務ですが、保育園は11時間保育であり、前後のパートやシフトがありますが、最近はこどもから離れた仕事時間を確保するように言われています。10年前、15年前の保育士はあらゆる壁面や作り物も率先してやっていたが、いまは養成校でもピアノの練習もしなくなり、壁面の作成もしなくていいという形に変化し、業務を見直しながら若い世代に来てもらっていますが、まず人材が集まりません。待機児童解消のため、保育園の数がとても増えた分、一つの保育園当たりの就職する学生の数が減ってきて、そういうスパイラルが続いているのも事実です。DX化が進み、根性保育的なものから緩やか保育になってきているのも事実です。また、発達に課題のあるこどもも増えてきています。一人ひとりを大切に保育をするために、今までは一斉に保育をすることで一人の保育士で足りていましたが、発達に課題があるこどもにはさらに加配の保育士が必要になります。終身雇用という感覚が若者になく、保育園ですと6クラスありますので6年一回りで6年目に辞めて転職する保育士もいます。6年目を乗り越えて結婚・出産して育休を取って復帰してもらえれば10年、15年続けて勤務してもらえるので、どう乗り越えるかを考えています。

⇒（委員）

若い先生も多く、出産を控えている先生もいらっしゃいますし、休暇を取った後復帰されない先生もいらっしゃいます。

⇒（委員）

羽曳野市だけでなく、様々なこども園において、離職率の高さが課題となっています。業務量の多さが原因ではないかと言われてはいますが、園ごとに離職理由は異なっています。もちろん業務が大変で離職率が高い場合もありますが、人間関係の調整等、年代によって、色々な要因がある中で、それぞれの園でどのような組織マネジメントをして離職防止につながるかを考えていかなければならないと感じています。保育士を目指す学生と面談で、保育士として長く勤めるつもりはあるかという質問をすると、保育に対してあまり夢を抱けていない学生や、保育士になりたいと思っても実習で現実を見たという学生もいます。保育士が素晴らしい仕事だと伝えていかなければならないし、保育士として現場に出た時の支援もしなければいけないと思います。

⇒（委員）

昔の保育士は、先輩がたくさんいて、人材にも余裕がありました。今はベテランもいますが、自分のクラスも忙しく、新しく入った職員を育てる、若者を育てるといったことが難しい時代にあると思います。そのあたりも続けづらい原因になっているのではないかと感じています。

⇒（委員）

こどもが日本全国で減っているのに、なぜ保育士が足りていないのでしょうか。また、羽曳野市は土地があると思っただけですが、なぜ遊び場が少ないのでしょうか。

⇒（委員長）

こどもが減っているのに保育士が足りないことにつきましては、社会的に言われている要因としては、共働き家庭が増えていて、今までなら3歳から幼稚園に通おうという家庭が、0歳や1歳から保育所やこども園を選ぶようになっており、その分保育士が必要になっているからではないかというのがあります。それが以前に比べて保育士が不足している一番大きな理由だと思えます。また離職者がいるので全体として保育士数が増えないということもあります。二つ目の土地があるのに遊び場がないのはどういうことかというのは市民目線としては大切なところかと思いますが、いかがでしょうか。

⇒（事務局）

羽曳野市には公園がないということではなく、いわゆる住宅ごとの小さい開発公園はそれぞれにあります。ただ、峯塚公園くらいの大きな公園が、他市に比べると少ないとは思いますが。市域全体における公園の面積を他市と比較すると、羽曳野市は少ないということになると思います。羽曳野市は小さな市ではありませんが、石川からみて東側と西側では町の様相が違い、西側は住宅が密集している地域となっていて、東側は自然がたくさんあり、自由に家を建てたりできない地域となっています。西側でも特に高鷲などは人口密集率が高く、それに応じた十分な面積がない可能性は高いです。そういうところが、ずっと課題になっており、色々なアンケートを取ると遊ぶ公園があまりないという意見が非常に多くあります。ボール遊びができる場所が欲しいというニーズに対して、高鷲北幼稚園跡地がボール遊びができる広場となっております。それ以外にも、バスケットボールやスケートボードができる広場等の整備をしております。市で有効活用できていない場所を使って順に遊び場を増やしている途中であり、もうしばらくお待ちいただければ少しずつ増えていくと考えております。

（委員）

私はコロナ禍において、高校3年間授業がリモートで行われたり、対面でもマスクが必須であったりしました。大学進学して驚いたのは、周りの学生の授業に対する反抗的な態度が今までとは比べ物ならず、先生が注意してもそれに反発する人もいることです。これはなぜなのか担当の先生に聞くと、中学、高校で先生とのコミュニケーションをとれなかったことも原因の一つと聞きました。いま、コロナ禍の中生まれた周りとのコミュニケーションをとれていないこどもがたくさんいて、同世代も含め、先生とのコミュニケーションも心配なところがあり、それに加えてICTの環境が一気に整えられましたが、コロナが落ち着いてもリモート授業やリモートワークが大事となると、コミュニケーション能力が慢性的に低下していく危険性があるのではないかと考えています。中学1年生くらいのこどもと話したときに、普段何をして遊んでいるか聞くと、パソコンでゲームをやっていると言われました。ICT環境が整ったことで、こどもは家の中で自分の楽しみを完了させられる時代が来るのではないかというのも不安なところで、外で遊ぶことにどう魅力を持たせればよいか気になっています。

⇒（委員）

オーストラリアで16歳未満はSNS禁止という法律ができたと聞きました。羽曳野市においても、中学生、小学生あたりからのICT化を進めるうえで一人ずつパソコンを付与していくということで、前回の会議でも脳が脆弱化する恐れがあるのではないかと指摘しました。そのあたり

は検証されていないという回答でしたが、オーストラリアは思い切ったことをしたと思います。SNSがいじめのきっかけになっていたとも聞きますので、若い委員がそういう心配を持っているというのは心強く感じました。

⇒（委員）

デジタル端末は小学一年生からどんどん使っています。こどもが育つのに端末は欠かせないものだと思います。どこまで使用してよいかの兼ね合いが難しいと思いますが、パソコンやICTが今より身近なものとなったときに、タイピングできなければ困る時代が来ていると思いますし、いかに上手に付き合うかという考え方にシフトしなければならないと思います。保護者の方から油断するとこどもがyoutubeを見ているとも聞きますので、長期休暇中は使用不可とし、普段も利用時間に制限をかけるなど、学校でも注意しますがご自宅でも気を付けていただくようお願いしています。ICT自体が目標ではなく、あくまで授業をするための一つの手段と考えています。目まぐるしく教育環境が変わっており、教職員も、ICTを使って何を指すかを考えている状況です。

（委員）

先ほどもありましたが、幼稚園でも先生の負担が大きく、疲弊しています。工作物の作成を保護者が手伝ってはどうかという心強い声がありましたが、羽曳野市はコロナ禍前は区域ごとに一校一園となっており、更生保護女性会も各校区にありますので、小学校や幼稚園に必ずかかわっていました。月に何回か読み聞かせに行ったり、例えば2月にはお雛様づくりを一緒にしたりするなど、こどもからしたらまるで祖母のような存在で、こどもも楽しみにしてくれていたと思います。入園式・卒園式や小学校の入学式にも行っていました。コロナ禍以降大きく変わったのではないかと思います。

⇒（委員）

更生保護女性会の方に行事に来ていただいたりすることは今でもあります。

⇒（委員）

認定こども園に統合した今も門前であいさつ運動を続けています。保護者、こどもともやり取りがうまれますし、大人と関わりを持つということがこどもにとっては成長の一環ではないかと思います。認定こども園になってからは、幼稚園のときのような地域の深い関わりが持ちにくく、更生保護女性会としてどこまで入り込めばよいかという課題があります。地域に根差した団体があると思いますので、市としてこの時期に手伝ってほしいとか、この行事で手伝いをお願いしたいということをお願いいただければよいのではないかと思います。今はそれがなく、園の先生はすべて自分で仕事をするようになっています。今後考えていただければと思います。

⇒（委員長）

園や学校、近隣に人材や資源がたくさんありますので、それを使うかどうかは園や学校、市の考え次第だと思います。上手なところは、園や学校だけで完結させず、地域社会と一体的に教育・保育をしていますので、コロナで難しかったところはあると思いますが、こども園化を進める中で、こども園は法律上地域とのつながりは求められていますので、そういった資源を上手に使っていくということが進んでいくと、よりよい子育てにつながるのではないのでしょうか。こどもにとっても色々な人と関わる機会は大切だと思いますので、園の先生との関わりも大切ですが、

地域の方のなかにはこどもがいうことをすぐにくみ取れない人も多く、そういった自分の言うことをすぐにくみ取ってくれるひとばかりではないという経験を積み重ねていくことは大事な点かと思えます。市のバックアップが必要であれば是非していただきたいです。

(委員)

学童が8時半からしか使えないので、入学式から始業式までは8時半から9時の間に行くことになりましたが、私は8時半から仕事で、どうにかならないのかと思えます。ほかの保護者も開始時間が遅すぎると話しており、有給休暇を年度初めからとるのもためられるので、もう少し早い時間に開始して、働く世帯にもう少し寄り添っていただけるとありがたいと思えます。また考えていただければと思えます。

⇒ (事務局)

学童につきましては、以前は長期休暇や土曜日は開所していませんでしたが、必要とされている声が多く、今土曜保育を実施しております。開始時刻の問題はまだ残っており、かなりご意見をいただいております。今後検討していかなければなりません、現場の支援員との兼ね合いもあり、進んでおりません。検討事項としては上げており、できるだけその点も対応できるよう進めていきたいと思っております。

8. 閉会